

# 新型コロナウイルス感染症の影響と対応について

## 1 感染症拡大による林業・木材産業への影響

○本年2月以降、物流や住宅建築の停滞などにより、輸送資材（梱包・パレット）や建築材等の**需要が減少**し、工場の**原木在荷量が増大**

- ・カラマツ製材については、5～9月にかけて梱包・パレット材を中心に出荷量が前年同月比で3割以上落ち込むなど大きな影響
- ・トドマツ製材についても、建築材を中心に出荷量が前年同月比で2割以上落ち込む状況が継続

○製材は、直近の調査（速報）によると、出荷量は8月を底に徐々に増加しているが依然低い水準。原木在荷量はなお高い水準で推移  
⇒ **本格的な需要回復はまだ見通せない状況**

【今後の見通し】※第4回北海道林業・木材産業新型コロナウイルス対策に関する連絡会議(10/7)の主な意見

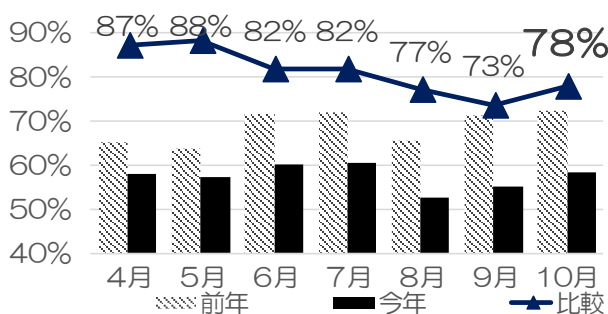
- ・梱包・パレットの本格的な回復の傾向が見えてくるのは年明けになると見ている。
- ・合板向けのカラマツは、今後はそれなりの量が販売できると見ている。トドマツも、年明けくらいから動くのではないかと見ている。
- ・丸太の受入制限の継続により、これから川上に影響が広がっていくことを懸念している。

○木材需要の減少が長期化しており、事業量の減少など関連事業者の**経営への影響が懸念**

○原木の受け入れ制限により、主伐や伐採後の植林などの**森林整備が停滞する懸念**

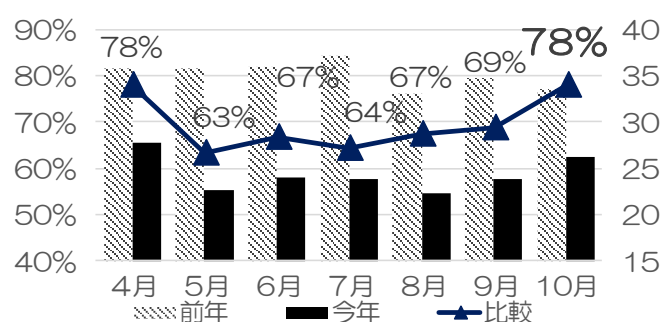
本道の林業・木材産業や森林資源の循環利用への影響を最小限に抑えるため、継続的な対策の実施が必要

トドマツ・エゾマツ製材出荷量 (千m<sup>3</sup>)

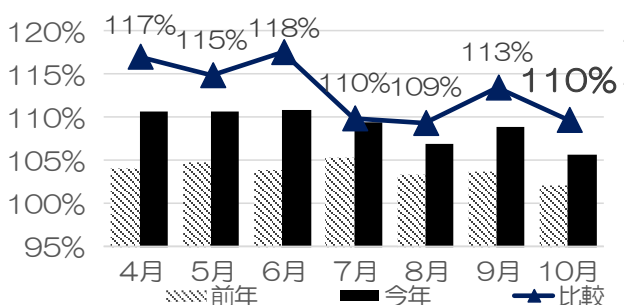


出典:製材工場動態調査 ※R2.8以降は速報値

カラマツ製材出荷量 (千m<sup>3</sup>)

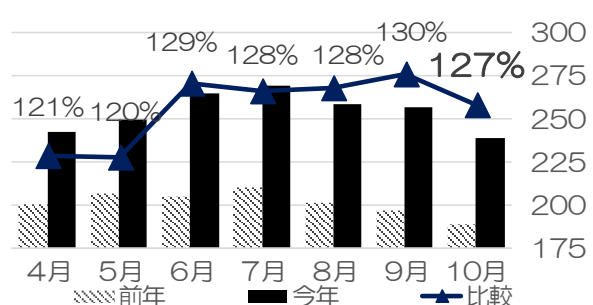


トドマツ・エゾマツ原木在荷量 (千m<sup>3</sup>)



出典:製材工場動態調査 ※R2.8以降は速報値

カラマツ原木在荷量 (千m<sup>3</sup>)



## 2 主な対策

### ◆必要な対策を検討するための体制

- ・ 業界団体や関係企業、国（森林管理局）などによる **連絡会議** を4月に設置
- ・ これまで4回（4月、5月、8月、10月）オンライン等により会議を開催し、情勢の分析や必要な対策を検討



### ◆資金確保や雇用維持などの経営支援

- ・ 事業者が必要とする **資金の実質無利子化・無担保化** など（国一次補正）
- ・ **持続化給付金、雇用調整助成金** による資金・雇用支援（国一次補正）
- ・ **経営継続補助金** による経営維持・販路開拓への支援（国二次補正）

### ◆生産・流通体制の強化

- ・ 滞留している **原木の保管場所確保** に要する費用への支援（国一次補正）
- ・ 北海道特有の掛かり増し経費（**除雪・長距離輸送**）や原木劣化を防止する **散水経費** 等への支援（道補正・10月～）
- ・ トドマツ等の **大径材** を有効活用できる **加工施設整備** への支援（国一次補正・道の上置き支援あり）
- ・ **国有林や道有林の供給調整**（搬出期限延長、入札延期など）

### ◆道産木材の需要の回復・創出

- ・ **公共施設等の木造化・木質化** への支援（国一次補正）
- ・ **道産建築材を使用した住宅や店舗などの民間施設** を建築する事業者への支援（道補正・10月～）



- ・ **道庁本庁舎1階ロビーの木質化** に取り組み、道が率先して需要を喚起するとともに、ソーシャルディスタンス等に対応した木材製品の普及などを通じて **道産木材を活用した新北海道スタイルの定着** を促進（道・4月～）
- ・ 道産木材製品（**HOKKAIDO WOOD**）のブランド化、**利用促進**（道・4月～）

**官民一体となった取組により、新型コロナの危機を乗り越え、森林資源の循環利用を着実に推進**